

聯合かなざわ地協
オンライン

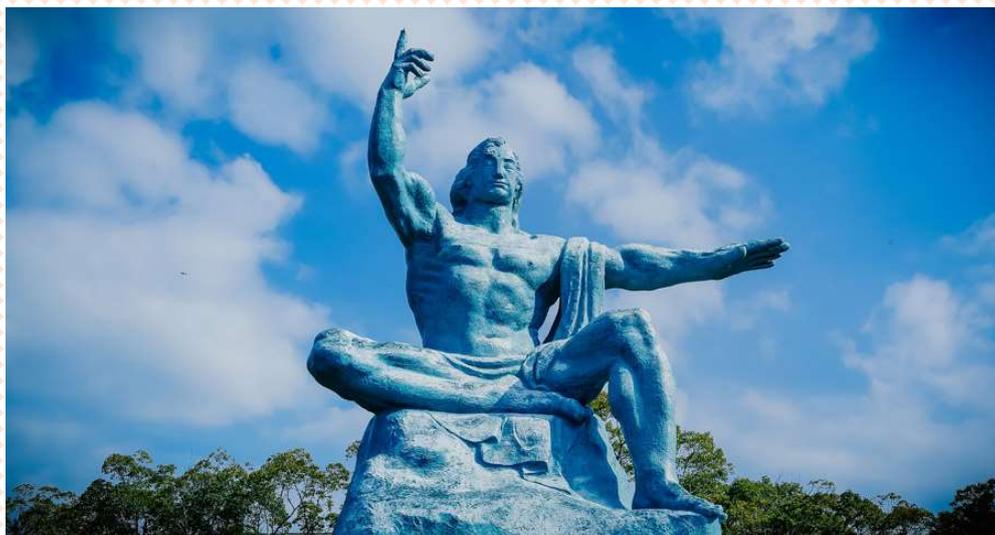


2020ピースアクション 感想文集

取組期間 2020年7月20日(月)～2020年8月14日(金)

今年度は、毎年恒例となっております「聯合かなざわ地協ピースウォーク」に代わって、オンライン「平和の伝承」に取り組みました。

長崎県原爆資料館のデジタル紙芝居を通じて感じた「戦争の悲惨さ」、「核兵器の怖さ」、「平和の大切さ」について小・中学生の皆さんに感想文を送っていただきました。



長崎の平和祈念像

像の柔和な顔は、神の愛と仏の慈悲を、天に向けて垂直に高く掲げた右手は原爆の脅威を、水平に伸ばした左手は平和を、横にした右足は原爆投下直後の長崎市の静けさを、立てた左足は救った命を表し、軽く閉じた目は戦争犠牲者の冥福を祈っているとされています。

北陸鉄道労働組合 坂下 葵さん（中学3年生）

テーマ 「8月9日、誕生日に思う事」

8月9日は、私の誕生日です。同じ日に大勢の人が亡くなった事、今も心に傷を持っている人たちがいる事を改めて知りました。なぜ戦争が起こるのか、戦争とは何か考えました。

小さい頃、物の取り合いで兄妹喧嘩した際、ちゃんと分け合って仲良くするよう親に教えられました。学校では、いじめや共有生活、ボランティア活動など先生から教えられました。しかし、戦争を起こしているのはそういった事を教えてくれたはずの大人です。

子は親、生徒は先生、日本は法律、過去なら王様など、それぞれ統制され大きな事態になる前に抑えられている。世界にも統制した何かがあれば戦争にまで至らない気がします。そして、戦争が起こる理由は貧困、差別、欲など色々あると思いますが、子供の頃に教えられた事を守る事で避けられると思います。

8月9日、大勢の方が亡くなった日、今もなお世界各地で続く戦争、平和な日が来ることを願って、今年の誕生日を迎えようと思います。



金沢市役所職員組合 なおとさん（小学6年生）

テーマ 「あの日8月9日そして、これから」

ぼくは、このデジタル紙芝居を見て戦争はこわいなと思いました。この紙芝居は、爆発したら一瞬で町が消滅したり人が亡くなってしまったりしたので、こわいなと思いました。

人間という生き物は、すぐに辛いことをふたで閉じてしまうということが分かりました。だけど、その辛いことの実事を知ると、ちょっと気持ちがおだやかになるということが分かりました。ぼくも辛いことがあれば、その実事を知りたいなと思いました。この世界がもっと平和になってほしいと思いました。

金沢市役所職員組合 ゆなさん（小学2年生）

テーマ 「かみしばい『あの日8月9日そして、これから』」

わたしは「あの日8月9日そしてこれから」というかみしばいを見て、せんそうは「かなしいな」と思いました。B29をはっけんして白いらっかさんを見たたん、目の前がだいたい色になって、長さきの町をめちゃくちゃにしてみました。

それに田川さんは、せんそうでお父さんとお母さんをなくしてしまいました。もし、わたしが、お父さんとお母さんをなくしてしまったら、ショックをたくさんうけてかなしくて、うごくこともできないかもしれません。

わたしは、せんそうをもうやらないでほしい、これからもへいわなせいかいがつづいてほしいと思いました。



北陸鉄道労働組合 碓井 友香さん（中学1年生）

テーマ 「あの日8月9日そして、これから」

私は、「あの日8月9日そして、これから」を見た。長崎県の話だった。

紙芝居を見て、夏休みの日、いつものように家にいた時に、急に外から思いもしないような爆発音が聞こえ、自分の住んでいた町がなくなり、多くの人の命も亡くなり、一度にたくさんのもを失ってしまったということに、私は、とても悲しい、辛い思いをしたのだらうと思った。生きている人もわずかで、助けも呼べなくなり、これからどうやって生きていこうかと思ひ悩み、苦しむ人の姿が目につかんだ。もう二度と戦争はおきてほしくない。

私は、戦争がどんなにおそろしいことか、この紙芝居を見て、聞いて、改めて平和が大切だということに気付かされた。

金沢市役所職員組合 はるまきどんさん（小学4年生）

テーマ 「長崎県の原爆の紙芝居を見て」

ぼくは、戦争はとってもこわくていやなものだと思いました。なぜなら8月9日に長崎県に落ちたたった一発の原子爆弾のせいで7万人いじょうの人が亡くなって、7万人いじょうのひとがけがをして、12万人いじょうの人が家をなくしたからです。今は、8月9日は小学生は夏休み中で毎日宿題をしたり遊んだりしているけれど、昔は戦争をしていたので、今は日本が平和になって良かったと思いました。平和だともものすごい力の原子爆弾は落ちてこないからです。

今でも外国では戦争をしている所があると聞いたことがあります。未来では、世界中で戦争がなくなっていてほしいです。

これからも戦争のこわさや平和の大切さを忘れないようにしていきたいです。



北陸鉄道労働組合 北村 橙子さん（中学2年生）

テーマ 「あの日8月9日そして、これから」

日常の大切さ、これを私は新型コロナウイルスの件で知った気になっていた。しかし、日常が奪われた今でも、私の周りには家族、友達などの大切な人が多くいる。その前に私は今生きているのだ。日常の大切さの前に、生きていることの素晴らしさを感じるべきではないだろうか。生きていれば最悪な日もある、されど最高の日もあるのだ。お話に出てきた少年は6年生の頃だ。私がこうして勉強が出来て、部活動が出来て、楽しい毎日を送っている75年前には、この生活が送りたいくても送れなかったんだ。

私は周りの人に感謝して生きている。これは誇ることができる。しかし、朝起きて、一日を楽しんで、夜ぐっすり眠る。これが一番の幸せなんだと知った。時には悲しい事もあるが生きていれば取り戻すことができる。生きていることこそが至高の幸せ。亡くなった方に恥ずかしくない生き方をする。

北陸鉄道労働組合 中川 陽葵さん（小学4年生）

テーマ 「戦争のこわさ」

かみしばいを見て思ったことは、戦争でたくさん人が原爆で死んでいって、かわいそうだなと思いました。わけは、今の時代はこんなに戦争がなくしあわせなのに、むかしの人は、たくさんくろうしてそのうえ戦争で死んでいっているから、かわいそうだなと思いました。それに昔は、わたしぐらいの子どもたちもがんばっていきているのだなと思いました。だから今わたしたちは、しあわせな時代なのだなと思います。それと、戦争はもうしてはいけないと思いました。



北陸鉄道労働組合 荒木 優さん（中学1年生）

テーマ 「『あの日8月9日そして、これから』を見て」

原爆が投下された時点で約7万人の人が亡くなって、死なずに生き残った人も家族を失っていて、何かしらの形で苦しんでいる人が大勢いたことが見てとれました。上空500mで爆発したのに、離れたところにあるジャガイモが熱線で煮えたり、辺り一面がだいたい色になったことなどが、原爆の威力を物語っていました。

両親と離ればなれになって、子供一人になって火傷やケガをおっている人と会って、段々と悲しいなどの感情を感じなくなっていっているところが恐ろしいと思いました。自分の目の前で父親が足を切断されたあげく死んでしまったり、母親が最後に自分と話して死んだり、死にたくなるような事がせつかく生き残ったのに起きてるのに、あきらめずに生きられることがすごいと思いました。

火傷の跡や爆発による黒いけむりや、診療所の薄暗い所が紙芝居独特の絵によって一段と怖さが増していると思いました。

北陸鉄道労働組合 荒木 けいさん（小学4年生）

テーマ 「戦争はもっともきけん」

ぼくは、せんそうが今でもあったら、食べ物もなくて家もない生活なんて、できないとおもいます。動画で見ていると、お母さんやお父さんがいなくなっていたら、ただみんなが亡くなっているときづかずに歩いてさがしていても、みつからない。川にいたとしても、人の死体があるだけ。えきについたとしても電車はない。死体やこわれた家。そして、お父さんやお母さんが亡くなったと気づいても、おはかもなし、土で作るしかない。だから家もなくて死んでしまうじんせいのおしまいというわけだとおもいます。げんしばくだんから、生きのこった人が、ぼくが1年生のときにきてくれて、その人は「本当にこわかった」といっていた。

動画でもあったように、戦争はきけんだ。戦争で生きのこった人は、いまでは生きていけない。そもそも、ぼくが思ったのは、戦争は、なんのためにやっているのか。いまでも戦争があったらみんな死んでいるとおもいます。



北陸鉄道労働組合 りこめいさん（中学生）

テーマ 「原爆の記録を見て」

デジタル紙芝居を見て、私は原爆や戦争についてこう考えました。

8月9日の原爆投下された日、当時の人達は原子爆弾が投下されるとは思いませんでした。それを知った時私は、いつもの日常が前触れもなく突然壊れてしまったらと考えてみました。私は戦争を体験していませんが、自分におきかえてみて、ある日大切な人が亡くなってしまうと想像すると、戦争がどれだけ恐ろしくつらいものかが分かりました。たくさんの方が亡くなったからこそ、その人達の死が無駄にならないよう、今生きている人が原爆の恐ろしさや、戦争を二度としてはいけないという事を伝えていかなければいけないと思いました。

必ずしもいつもの日常が明日も続くという確証はないと思うので、私は一日一日を大切に過ごしていこうとあらためて思いました。

北陸鉄道労働組合 平和大好きマンさん（中学3年生）

テーマ 「自分の持論」

僕は、戦争の悲惨さや核兵器の怖さ、平和の大切さ以外にも忘れてはいけないこと、次世代に語り継がないといけないことがあると思う。それは、日本だって悪いということである。

戦争当時、核兵器をつくっていたのはアメリカだけではない。世界の力の強かった国々は戦争に勝つために核兵器をつくっていた。そして日本もその国の一つだった。つまり、日本も他国に原爆を落とそうとしていたのである。たまたまアメリカの完成が早かっただけなのだ。それに、日本は中国や朝鮮の人々を理不尽に虐殺したり、人体実験に利用したりしていたのだ。日本は、自分達が受けた苦しみと同じくらい、中国や朝鮮の人々を苦しめていたのだ。しかし、日本では被爆国であることだけ持ち上げられ、そのことについて理解はされているが、あまり重要視されていない。だからこそ僕は、戦争の悲惨さや核兵器の怖さ、平和の大切さ以外にも日本だって悪いということを忘れてはならないし、語り継いでいくべきだと思う。



北陸鉄道労働組合 中田 優誠さん（小学6年生）

テーマ 「デジタル紙しばいを見て」

ぼくは、悲しいと思いました。わけは、戦争があった時代、亡くなった人数が73,884人、ケガ人が74,909人の人たちが被害を受けました。それを見て、今とちがっていることがすごくわかりました。戦争によりケガ人や亡くなった人が多くいて、病院もたりないし住むところすらなくなるので、たいへんだったことがわかりました。

それを見て思ったことは、いまの時代は戦争が起こらないけど、昔は戦争が起きていたので、昔はたいへんだったのだと思いました。

北陸鉄道労働組合 水内 ねねさん（中学3年生）

テーマ 「平和のありがたさ」

私は、この作文を母に頼まれましたが正直何を書いてよいのか全く思い浮かびませんでした。と言うのも、太平洋戦争についても連合国側と対立していた日本が無謀な戦いを仕掛け、多くの人が亡くなった位しか知らなかったし、平和な今の日本に生まれ育った私には、ぼんやりと戦争は嫌だな位の思いでした。

しかし、今回デジタル紙芝居を見て戦争の悲惨さ残酷さがとても強く伝わりました。つい先程まで一緒に生活していた家族や友人を一瞬で失うこと、それを今の自分が当事者になった場合、とても耐えられそうにありません。正常な精神状態で居れるはずも無いです。

現在の日本は平和ですが、世界のあちこちで紛争やテロが絶え間なく起こっていますし、身近な所では朝鮮半島は休戦中でいつ戦争が始まるか分かりません。そうなれば、日本にも火の粉が降りかかってきます。そんな事態にならない為にも、武力による抑止力や行使よりも対話による解決が大事だとおもいました。



連合石川スタッフユニオン がっこんさん（中学1年生）

テーマ 「『あの日8月9日そして、これから』を見て」

僕は、「あの日8月9日そして、これから」の紙芝居を見て、戦争の怖さを知りました。

最初は戦争をあまり知らなかったがこの作品を見てさらに怖さが深まりました。上空約500メートルで爆発したのに亡くなった方が73,884人、負傷者が74,909人で、すごく大きい爆弾だと思いました。原爆の中でせっかく生き残ったのにお母さんとお父さんが最後には息を引き取ってしまったのが、かわいそうだと思います。つらい経験なのに最後には経験してない人たちに話していたので、自分ならつらい経験は話せないのですごいと思いました。この紙芝居を見て自分は二度と戦争はしたくないと思いました。

原爆は、市1つを消滅させるくらいの力があるので二度と落としてほしくないし、落とされたくないと思います。

連合石川スタッフユニオン てるかさん（小学2年生）

テーマ デジタルかみしばいをみて

むかしせんそうがあり、にほんはたいへんなことがあったんだと、このかみしばいをみてはじめてしりました。

しょうわの人たちは、まいにちばくだんでこうげきされ、つらいおもいをしていたんだとおもいました。そして、つぎつぎといろいろな人がしんでいき、みんなかなしいおもいをしていたのをしりました。いまはもう、にほんはせんそうはやってないけれど、むかしはいろいろなことがあったんですね。いまは、せんそうはおわって、おだやかなまいにちをおくれることをしあわせにおもうようになりました。むかしの人は、せんそうがあって、人もたくさんしんでいくから、まいにちをみんなかなしいきもちでおくっていたのですね。

いまはせんそうがなくて、ほんとうによかったとおもうので、まいにちまいにちをたいせつにすごすことにしました。



倉庫精練労働組合 川端 健心さん（小学4年生）

テーマ 「あの日8月9日そして、これから」

75年前、原子ばくだんが落とされた、長崎と広島。ぼくは、この時代のことは、わかりません。デジタル紙芝居を見て思ったことは、苦しい時代だったんだなということです。わけは、家族が死んでいってしまったり、たくさんの人がけがをしたからです。

もうこんな時代には、なりたくないです。もしも、こんなことがまたおきたら、終わるまで生きのこりたいです。

倉庫精練労働組合 P.さん（中学1年生）

テーマ 「せんそう」

戦争は、たくさんの人の心を傷つけました。目の前で家族が死んでいたり、たくさんのひめい、体の傷はなおっても、心の傷は一生消えません。目の前の幸せが、一瞬でなくなる事の残こくさは、かなりつらかったと思います。

そんな戦争から学んだ事は、戦争の悲さんさです。どんな理由があっても、戦争をする事、人の心を傷つける事は、してはいけないと思いました。それは、一つの核兵器から、たくさんの人の命を殺し、心を傷つけた戦争と一緒に、たった一人の心ない言葉が、1人の人の心を傷つけおいこむ、いじめと一緒にだと感じました。

何があっても人を傷つけるのはいけない事だ、と深く心にとめておこうと思いました。



北陸電力労働組合 ゆうたろうさん（小学5年生）

テーマ 「平和について」

かみしばい「ひとみの中の子どもたち」

「先生の中にミサコがいるよ。」

ぼくは、それを聞いてなきそうになりました。

ぼくは、「戦争」はダメだと思いました。そして原子ばくだん、核兵器を使う事がダメだと思います。原爆によって、多くの人が死んだからです。それによって、家族を失った人もいました。

ぼくは、家族を失う事がこわいです。また、戦争もこわいです。人をきずつけあってもいいことはないからです。

核兵器は、人をきずつけあう兵器、だからもう二度と作ってはいけない、そう思いました。

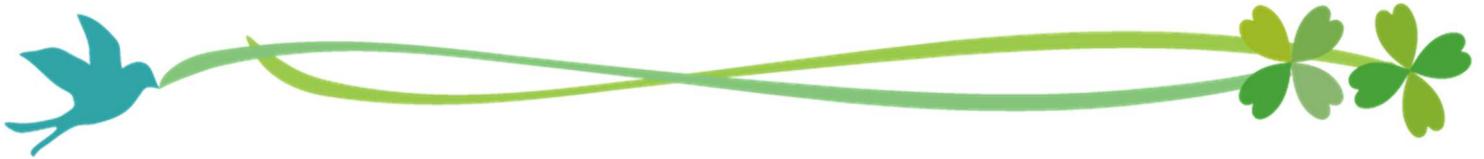
北陸電力労働組合 ゆみ子さん（小学3年生）

テーマ 「平和について」

わたしは、「ひとみの中の子どもたち」を見て、はじめはこわい話だと思いました。なぜかと言うと、原子ばくだんがおとされて、町がきえてたくさんの人がなくなってしまったからです。

わたしは、このような悲しいことがおこってしまってはいやなので、せんそうが二どとない、平和な世界であってほしいなと思いました。

こわい話だけれど、わすれてはいけない話だと思います。



～ 知ることからつながる、平和への道 ～

長崎市平和・原爆ホームページ（キッズ平和ながさき）

URL <http://nagasakipeace.jp/japanese/kids.html>

子供向けの平和学習サイトです。

PCでデジタル紙芝居「私たちが伝える被爆体験」、
「瞳の中の子どもたち」も見ることができます。

デジタル紙芝居「あの日8月9日そして、これから」

デジタル紙芝居 長崎

検索



PCで検索、もしくはスマートフォン等でQRコードを読み取ると、紙芝居を見ることができます。



連合石川かなざわ地協

〒920-0024

石川県金沢市西念3-3-5

TEL:076-232-7172

連合石川かなざわ地協

検索

FAX 076-263-3705

Mail renkana1@ishikawa.jtuc-rengo.jp



ホームページ
QRコード